

## 第 15 回 小豆島町総合教育会議

### 【日時・場所】

○開催日時 平成 28 年 12 月 27 日（火） 午後 1 時 30 分～

○開催場所 内海庁舎 2 階 研修室

○出席者 塩田町長、後藤教育長、熊坂委員、岡田委員、黒木委員、中川委員  
森口小豆島町議会議長、大川小豆島町議会副議長、  
安井教育民生常任委員会委員長、中松教育民生常任委員会副委員長  
谷総務建設常任委員会委員長  
岩澤小豆島高等学校校長、小玉小豆島中学校校長、出水池田小学校校長  
羽座星城小学校校長、石田安田小学校校長、松岡苗羽小学校教頭  
慈氏草壁保育園園長

○同席者 【町職員】

松本副町長、松尾副町長、坂東教育部長、空林総務部長、大江企画振興部長、  
城政策統括監、松田社会教育課長、後藤子育て共育課長、川宿田企画財政課  
長補佐、高橋教育指導室長、片山教育指導室長補佐

#### 【教育関係者】

安藤園長(星城・安田・苗羽幼稚園)

川口園長(旭・福田幼稚園、内海保育所橘・福田分園)

増田小豆島こどもセンター所長

大岡内海保育所所長

○傍聴者 6 名

○事務局 3 名

### 【内 容】

[塩田町長]

定刻となったので、第 15 回目の小豆島町総合教育会議を始める。本日の議題は 2 つあり、1 つ目が「これからの学校のあり方について」。10 月、11 月、12 月に小豆島町教育委員会と小豆島町役場において学校説明会と町政懇談会を行ったので、その結果について報告をする。またその後に、この総合教育会議のメインテーマである「小豆島町教育大綱（骨子案）について」教育委員会、教育長ではなく町長が作ることになっているので私の現時点での思案という形で今日ご説明をさせて頂く。それでは最初の議題の「これからの学校のあり方について」の学校説明会と町政懇談会の結果について事務局より説明する。

[坂東教育部長]

私の方から「これからの学校のあり方について」ということで学校説明会及び町政懇談

会の開催状況について説明する。学校説明会及び町政懇談会の日程表という資料をお願いする。1 ページの左側が学校説明会、右側が町政懇談会の開催状況となっている。学校説明会については町内すべての幼稚園、保育所、小・中学校で全 13 回開催した。開催日時及び参加者については記載の通りとなっている。右の方の町政懇談会については公民館区ごとに全部で 12 回開催して、開催日時、参加者等については記載の通りとなっている。

次に 2 ページをお願いする。2 ページの方から説明会においての質問事項で、2 ページが小学校についてということになる。主な点だけ読み上げていく。まず①「小学校の統合の進め方は」「小学校の統合は決定事項なのか」ということです。これに対する回答は「中学校の新校舎建設に 4 年、現在の中学校改修に 1 年を要するため、5 年後の統合を考えており、年内に方向性を決めたい」。また「意見を聴きながら進める方針であるが、3 小学校の校舎も老朽化しているので、現在の案がベストだと考えている」と回答した。次②「小豆島高校跡地に小学校は、どうか」という質問。これについては 1 点目が「小学校の徒歩の通学距離を 1.5km 程度と考えて、通学の利便性がよいこと」、2 点目が「中学校の部活動が、現在は学校外の B&G 等を利用しているが、学校内で可能となることから、現在の案がよいと考えている」と回答した。すこし飛んで⑥「池田小学校の児童数が何人になったら、統合するのか」。これについては、「当分の間、内海地区の小学校が各学年 2 学級、池田小学校は 150 人程度を維持できる見込みがあること」、「池田小学校は、内海地区と合わせて各学年 2 学級となることが見込まれる時期に検討を行いたい」と回答した。次に⑦「小豆島高校周辺は暗いため、不安がある」「部活動を早く終われないか」。これについては「小豆島高校は教育環境はよいが、スクールバスの通行には幅員が狭いこともあり、通学路の安全性については検討する」、また「部活動が学校内で行えるようになれば、移動の時間が短縮できるため、早く終わることも検討できる」と回答した。

次に 3 ページをお願いする。3 ページの方が幼稚園、保育所になる。⑥の方が内海保育所の保護者の意見で「3～5 歳児が苗羽幼稚園に行くことに対し、不安や反対の意見が多いが、保護者アンケートをまとめて町に提出する」ということであった。これについては「11 月 21 日に意見書の提出があり、3～5 歳児を苗羽幼稚園で保育することに反対の意見であった」。これについて、11 月 30 日に次のとおり回答した。「来年度以降も現状のまま内海保育所で 0 歳～5 歳児までのお子様をお預かりして運営する」、「今後も意見を聞く場を設けるとともに、耐震診断を実施する」と回答した。また、12 月 22 日に上記回答の保護者説明会を開催し、了承を得た。次に⑧「幼稚園や小学校を統合しても、地域との関わりを大事にしてほしい」。これについては「地域行事やイベント等への参加などの良いところは残していく」と回答した。次に⑩「こどもセンターは認定こども園になるのか」。「内海地区の認定こども園と同時期に認定こども園とする予定である」と回答した。

次に 4 ページをお願いする。4 ページからが町政懇談会における質問事項になる。①「小豆島高校跡地は 4.8 ヘクタールと非常に大きな敷地だが、それを中学校校舎他部活動で使った場合、この跡地は県から買い取るのか、借りるのか」という質問。これについては「小豆島高校の跡地の活用については、事務レベルでは今秋に県に要望しており、決定した段階で正式に県に申し入れをする予定である」、また「使い方に関しては、借地になるのか売買になるのか、それも含めて県に申し入れしてからの協議になる」と回答した。次に③「小中一貫校を小豆島高校跡地に建てるという案は出なかったのか」「内海認定こども園は、苗羽小学校跡地に建てる計画なのか」ということ。これに対して「案は出たが、

今の段階では小中一貫校ではなく別々にすることで検討している」「認定こども園は、今の段階では苗羽小学校の跡地が第一候補であるが、保護者、住民の方に説明をし、了解を得られればその方向に進めていきたいと考えている」。次に④「内海地区の小学校を統合するということだが、何故池田も同時に統合しないのか。池田地区の保護者が反対しているのか」ということ。「池田小学校は児童数が一番多く規模も大きいので、内海小学校と合わせて各学年のクラスが2学級になる時期に学校の統合は検討したい」、また「池田小学校は当分の間存続することについては、保護者から統合の反対が出ているわけではない」という風に回答した。

次に5ページをお願いする。⑧になるが「福田を除いた内海地区の幼稚園、保育所を集約する計画のようだが、橘は子どもがいなくなると寂れてしまうと住民の方は思うだろう」、「園児の送迎はマイクロバスか何かで行ってくれるのか」。これについては「橘こども園も一緒に集約する理由は、トンネルができ、通学にかかる時間を短縮できるようになったこと」、また「現在の園児バスについては、坂手幼稚園、西村幼稚園で運行しているが、保育所は基本的に保護者の送迎になっていること」、「統合は早くても6年後なので、統合前には協議会等をそれぞれの園で立ち上げてもらい、送迎についても保護者の方と協議しながら円滑に進めていきたい」と回答した。次に⑩「現在坂手の児童は苗羽まで路線バスでいっていると思うが、小豆島中学校跡地に移転した場合は路線バスからスクールバスに変わるのか」ということ。「小学校の統合の2、3年前に、それぞれの学校の中に統合対策の準備会や対策協議会等を設置したいと考えている」、また「小豆島中学校跡地に移転した場合、苗羽地区の児童は通学距離の関係でスクールバスになる可能性があるので、坂手にスクールバスを走らせるかどうかは保護者と協議して検討していきたい」と回答した。次に⑪「小豆島高校跡地の道路について、現在でも道幅は狭いが用地買収ではなく、信号機か何かで一時的に一般の車を止めて、スクールバスを優先的に通すようなことは考えられないか」。これについては「現状はご指摘いただいた道路も選択肢の一つとして考えている」「様々な方法が考えられると思うので、検討していきたい」と回答した。最後に⑫「平成33年4月に小豆島高校跡地に中学校を移転する予定であるが、それまでの環境整備はどこが責任を持ってくれるのか、周辺には多くの住宅があるため草木の整備等はしっかり行ってもらいたい」。これについては「小豆島高校跡地は県有地なので、小学校の統合、中学校の移転の方向性が決まり次第、県の教育委員会と協議していく」「平成29年3月に閉校となるので、4月以降については小豆島町で管理していきたいと考えている」と回答した。説明は以上。

[塩田町長]

学校説明会と町政懇談会の結果について説明であった。只今の報告についてご質問、ご意見があれば。教育長から少しコメントして頂く。

[後藤教育長]

学校説明会、そして町政懇談会で私たちの言っていることは中学校が高校へ移転し、中学校に小学校をまとめて、内海地区の幼稚園を一つにして子ども園にという考えである。これに対して質問等はたくさん出たが、反対という意見がなかったことも合わせて報告させて頂きたいと思う。

[塩田町長]

特に質問等がなければ、また後程して頂くこともよろしいかと思う。次に、町政懇談会、学校説明会の結果なども踏まえて、私の方で小豆島町教育大綱の骨子案を作った。今からご説明するが骨子案であるのでこれからよく議論して頂いて、来年になるが何度か議論して頂き、また町民の皆様から意見を聞く機会もとりたいと思っている。とりあえず年度末を目標に小豆島町教育大綱を正式に決定したいと思っている。そういう前提で事務方に私の代わりに説明してもらう。

[坂東教育部長]

それでは資料の小豆島町教育大綱(骨子案)の方をお願いします。1 ページをお願いします。全体で大きな大項目としてⅠかⅦまで設けている。大きな項目のⅠ「大綱の趣旨」、この大綱は、町長が「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、策定するもの。また、国の第2期教育振興基本計画(平成25年6月策定)を参酌し、社会情勢や本町の子どもたちを取り巻く現状を踏まえて、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策」の方向性を定めるものになる。次にⅡ「大綱の期間」、本大綱の対象期間は、平成29年度から平成33年度までの5年間とし、社会情勢や教育を取り巻く環境や施策の進捗状況等に応じて、適宜見直しをすることになっている。次にⅢ「教育目標等」ということで①「教育目標」、これは現在の教育委員会の教育目標と同様になるがふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくりとしている。②「重点課題」で(1)幼・保、小、中、高の一貫教育の推進、以下中段から下に緑色になるが大項目のⅣからⅦということ为重点課題を取り上げている。次に③「教育方針」、(1)学ぶ意欲を高め、知性を磨く、以下記載の通りとしている。

重点課題のⅣ以下については詳細が2 ページ以降になるので、2 ページの方をお願いします。2 ページが大項目のⅣ「幼・保、小、中、高の一貫教育の推進」ということになる。中項目の①として「発達段階を考慮した学校教育のあり方」ということ。表にしているが、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校について発達段階に応じた教育のあり方として記載している。次に中項目の②として「幼・保、小、中、高の一貫教育の推進」ということ。(1)幼・保、小、中、高の連携強化、(2)ふるさと教育の推進、(3)奨学金制度の充実、としている。次に③として「教育環境の取組」、(1)学校等の適正配置(統廃合を含む)ということ、小豆島中学校の移転、内海地区の小学校統合、内海地区認定こども園を推進する、ということにしている。(2)学校施設等の耐震化及び適正な管理という項目を設けている。次に右上の④「学校教育の取組」ということ。(1)学校教育体制の充実と信頼される教師の育成、(2)分かる授業の実践、(3)確かな学力の向上、(4)人権尊重の教育の実践、(5)学校安全の充実、(6)小豆地区特別支援学校の設置を推進、(7)新たな教育への取組、という風になっている。次に⑤「運動能力向上の取組」ということ。(1)体力づくりの実践、(2)健康づくりの推進、(3)食育の推進としている。

次に3 ページをお願いします。大項目のⅤとして「子育て応援の充実」ということで、すくすく子育て応援アクションプランの計画によってこれを推進しながら施策を実施したいと思っている。①「就学前教育の充実」ということで、(1)発達段階に応じた教育課程の編成、(2)幼稚園教諭、保育士の資質向上、(3)乳幼児一人一人に応じた教育の展開、(4)

地域に開かれた幼稚園、保育所、こどもセンターづくり、(5)あいさつ運動の推進、(6)思いやりのある子どもの育成、(7)子どもの個性の尊重、(8)家庭で守るべきルール の作成や家庭のあり方 の見直し、(9)認定こども園の推進、これについては草壁保育園が来年4月から認定こども園に移るとい う風に聞いているが町の幼稚園保育所についても認定こども園化を推進していき たいとい う風に考えている。次に右上の②「子育て応援の島づくりへの取組」とい うことで、(1)子育て支援拠点事業、放課後児童クラブなどの充実、以下記載の通りとなっ ている。次に③「自然・文化を生かした教育」とい うことで、(1)自然を生かした教育の充実、(2)豊かな心を育てるための文化活動の推進。最後に④になるが、「働きやすい環境の促進」とい うことで、(1)働きやすい環境の促進、(2)男女の働き方の支援、とい うことにしている。

次に4ページをお願いする。4ページが大項目のⅥ「生涯学習と文化・芸術の推進」とい うこと。①「生涯学習の推進」とい うことで、(1)地域コミュニティの核としての公民館の充実、以下(2)(3)記載の通りとなっ ている。次に②「文化・芸術活動の推進」とい うことで(1)文化・芸術の振興、(2)文化財の保護と活用、(3)三都、福田での芸術活動の推進、(4)瀬戸内国際芸術祭の取組、とい う風にしている。右上の③「青少年の健全育成の推進」、(1)青少年の健全育成の推進、(2)子ども会活動の振興と充実、(3)学校支援ボランティアの推進としている。中項目の④「図書館活動の充実」として、(1)利用者の利便性向上の取組、とい うことにしている。次に⑤「社会体育活動の推進」とい うことで、(1)誰もが参加できる多様なスポーツ活動・体育行事の推進、とい うことで以下記載の通りである。最後に⑥「生涯学習のまちづくり支援事業の推進」とい うことで、(1)自主的な生涯学習の一層の高まりを目指した積極的な取組を推進すると共に、(2)補助事業終了後の自主的活動の推進、としている。

最後に5ページをお願いする。大項目のⅦとして「温もりと希望の島づくりの推進」としている。これについてはインクルーシブ・ソサエティ(共生社会)を目指してとい う考えからこ のような項目を設けている。左上から①「生涯を通じた障がい者支援の充実」、障がい者が安心して暮らせる社会の構築を目指し、自立と社会参加を支援するとい うことで、(1)5歳児健診等の充実、以下(5)障害者施設の整備まで記載の通りとなっ ている。次に右上②「偏見や差別のない社会の構築」とい うことで、(1)解決すべき人権課題、を記載しているが人権課題を解決するため小豆島町いきいきプラン(男女共同参画基本計画)を実践するとい うことにしている。(2)誰もがいきいきと暮らせる社会に向けた取組、とい うことで町民の方、事業所、小豆島町、教育現場としてそれぞれ取組むべきことを右側に記載している。最後に③「教育と医療・福祉の連携の推進」とい うこと。小豆島中央病院を核とした地域包括ケアシステムによる地域づくりを推進するとい うことで、(1)小豆医療圏地域包括ケア連絡会、(2)各計画との連携、とい うことですす くと子育てアクションプラン、男女共同参画基本計画、介護保険事業計画、老人福祉計画、障害者福祉計画との連携を図っていくとしている。説明の方は以上で終わる。

[塩田町長]

以上が小豆島町教育大綱の骨子案、叩き台とい うものである。これから色々な所で議論して頂き、来年の3月に正式決定したいと考えている。今日はポンチ絵のよう なもので説明したが、正式の大綱を他の自治体では文章でしているの で小豆島町も文章化したいと思

っている。叩き台であるので色々ご意見を頂いて、より良いものにし、また肉付けをしていってということになるのではと考えている。議論の中心はこの総合教育会議と法律で決められているが、この総合教育会議の他に町議会であるとか、パブリックコメントになると思うが年が明けたら町民の方に意見を聞く機会も設けたいと思っている。この総合教育会議でも今日を皮切り年明けから2度、3度ご意見を頂きたいと思っている。以上の事を前提に今日はざっくばらんにご意見やご質問など、先程の学校説明会や町政懇談会などの結果も含めて自由にご意見、ご発言を頂きたい。まず教育長から。

[後藤教育長]

私の方からは、先程町長の話にもあったように町長が大綱を作るということで教育目標等は今は教育委員会で作った「ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり」としている。この辺りも意見を言ってもらって、より良いものにしてもらったら有難いと思う。ご意見を是非お願いしたいと思う。あくまでも叩き台であるので、皆さん方の意見によって本当により良いものになって、本当に大事な考えが使えるもの、よく分かるものができたら有難いと思っている。

[塩田町長]

重点課題を4つ挙げており、「幼・保、小、中、高の一貫教育の推進」、「子育て応援の充実」、「生涯学習と文化・芸術の推進」、「温もりと希望の島づくりの推進」というフレームは私の提案であるが、その下の教育方針は1から5までであるがこれについてもう少し説明してもらいたい。

[後藤教育長]

教育目標について先程も申し上げたが、昨年度まで教育委員会で作っていた教育目標「ふるさとを愛し」というものがあるが、それを受けて教育方針ということも教育委員会で考えて作った。やはり、学ぶ意欲を高め、知性を磨くことが大事ではないだろうかということ。そして、人間尊重と道徳性も大事ではないだろうか。併せて3番目にたくましい心と体を鍛えるということでこれからの子ども達にとっては特に重要ではないかと思う。そして社会連帯の意識を養い、郷土を愛するということで、郷土を愛する、ふるさとを愛することでまた子ども達が島に帰ってくることではないかと思い教育方針に入れた。そして最後に子育てと社会参加の両立を推進する、これが子育てアクションプランの辺りを意識して教育委員会としてこのように教育方針を入れている。その辺りでおかしいのではないかという部分も出てくるかと思うので、皆さん方も実際に色んな所で子ども達の様子を見てもらっているので言葉等を変えてもらったら結構だと思う。よろしく願いたい。

[塩田町長]

この教育方針の1から5まではこの教育大綱のために初めて教育委員会の方でまとめた考え方になるのか。それともこれまでもこの5つの方針で小豆島町の小学校、中学校では教育方針として採用されていたのか。

[後藤教育長]

この教育方針については今まで私が教育長になってからずっとこの形でということをお願いしてきたもので、新しく教育大綱のためにというものではない。出来たら意見を何か頂ければと思っている。

[塩田町長]

以上のような感じで今日は自由に喋って頂ければと思う。

[安井教育民生常任委員会委員長]

2 ページの 5 番の食育の推進についてだが、高校も入っているということでどういう風なやり方を考えてのことか。中学校までであれば給食関係でということがあると思うが、高校の方では今オリーブを使った行事をしているがそういうのをイメージしたものであるのか。

[坂東教育部長]

今安井議員が仰ったように小豆島高校でもオリーブ料理といったことで取組んで頂いている。来年度から小豆島中央高校となるとまた新たにコミュニケーション教育や英語、こういう食育等についても出来るだけ連携して、協力してやっていけるところは高校の方と協議していきたいと考えている。

[塩田町長]

岩澤校長先生、何かコメントがあれば。

[岩澤小豆島高等学校校長]

現在でも先程仰られた通りオリーブ料理フェスティバルということで、そこで 12 品のレシピを最終的に選んでその中の優秀なものを小学校の給食の方に献立として使っている。新しい学校になっても出来るだけそういうものは引き継いで使って頂きたい。あとは食事だけではなく高校、中学校、小学校を含めて英語教育などを進めていけたらいいかなと思う。そういう風な構築していかなくてはいけないことはたくさんあると思うが、こういうことを地域と連携して頂けたらと思う。

[塩田町長]

先程岩澤校長先生が言われた一貫教育について少し補足すると、今は香川県教育委員会に小豆島中央高校開校準備室というところがあり、香川県教育委員会の高校教育課長が準備室長で両校の教頭さんたちが副準備室長という組織になっている。来年の 1 月から新しい高校の建物に常駐で小豆島中央高校の準備を進めることになっている。2 週間ほど前に準備室長さんから両町の方に、私と教育長が出ていたが、現時点の方針ということでこういう見解という例示があり、その中で先程岩澤校長先生が言われた英語教育を出来れば小、中、高と小豆島でやってみたいということ。それとコミュニケーション教育を、一部では小豆島町でもすでにやっているが、これも新しい高校としての一貫教育としての例示としてやってみたいと仰っていた。

他に何か質問や気になっていることがあれば。黒木委員はお久しぶりであるが。何か思い付きでいいが。

[黒木委員]

学校教育も大事であるが、家庭教育の部分も入れて頂きたいと思う。これはダメなのか。

[塩田町長]

全然可能であると思う。事務局の方でどうか。あと、今日の教育民生常任委員会でPTAの役割などのご意見もあったのでざっと話して。

[坂東教育部長]

今のご質問であるが、事務局としては2ページの4「学校教育の取組」の中で中項目として7点を挙げている。今黒木委員からあったようにここに家庭教育の充実ということで中項目として挙げるか、先程町長からもあったようにこの骨子案を文章で表現する中では家庭教育の大切さということで文言を入れるように考えている。であるから中項目の下の記事として記載はする予定にはしているが、やはりある程度中項目として家庭教育の充実ということで文言を入れる方が良いということであればその方向で考えたいと思う。それとPTA活動等についても家庭教育と同様に中項目として挙げて、住民の皆様により分かりやすいように明示した方が良いということであればそれについても検討したいと思う。

[塩田町長]

この教育大綱は、従来であれば教育については教育委員会が教育の視点からまとめてこうするということに対して、それだけではなく各自治体の首長が自治体全体を考えて教育のあり方の骨子、大枠を示して住民の皆さんだけでなく教育委員会なりにもその趣旨を徹底して欲しいという主旨がおそらく含まれていると思う。実際、この骨子案は教育委員会、事務方に作ってもらったが、従来のものは基本的に盛り込むというかアピールするという形の大綱にした方が良いのではないかと思う。であるから、従来の教育委員会が教育大綱を作ると自分たちが直接所管している、幼稚園、小学校、中学校といった高等学校は県立高校であるからそこについては遠慮する、触れないという教育大綱が出来たのだと思う。行政のトップの立場であれば、それにこだわることはなく地元の子ども達、地元の住民をどうするかという視点で考えることが出来るので、高等学校の方も自由に書き込んでいいのだと私は思っている。高等学校が県立であれば県の教育委員会に小豆島町の考え方を申し入れて実現するという、そういうところに今回の教育大綱のメリットがあるのだろうと思う。

[大川小豆島町議会副議長]

まず学校のあり方で、このままでいけば4年後、5年後になると思うが学校視察をさせてもらった時に校舎が古びているので色んなところを改修してやっているが、何年後には1つになるからといってある程度改修をせずにやっているような施設もあると思う。それともう1点は各小学校の図書室の蔵書が1つの小学校になると重なる本があるから、購入するのを抑えているという現場からの声も聞こえている。今の小学生は統合になった時に



はいないのであるから、今の子どものための教育というかそういう施設、あるいは蔵書など今の子どもにベストの体制を作っていって欲しいと思う。それからもう1点、教育大綱の方の2ページに「運動能力向上の取組」の①体力づくりの実践に体育活動及び部活動の強化を推進するとある。先日新聞で学校の部活動の先生方の負担を軽減するために部外コーチというか、管理者を自治体の方から委託してもらおうという記事が出ていたと思う。今中学校、高校も部活動は野球や陸上など一生懸命やっているが、今度新しい高校に臨むなら各種目特出した種目に限らず、それぞれの学校で行う部活動に関してはやはり部外コーチ、学外の地域の方のボランティアではなくある程度の報酬などを考えて雇わなくては校長先生方の負担が増すと思う。先生方も部活動を日曜日に見ていたら何千円か値上がりするということも新聞に出ていたが、今は安い手当で日曜日や試合に行き、練習もしているらしいが、その辺りも考えていく中で教育大綱に部活動の部外コーチの委嘱なども考えて頂きたい。高校に関しては小豆島高校と土庄高校それぞれに部活動のOB会などそういうところがあると思うが、その摺り合せなども考えていかなければならない。それと専門の指導者、小豆島高校の陸上では荒川先生という人がいるから生徒が集まってくる。野球部であったら杉吉先生、それは学校の先生であるが地域でそういった方がいると思うのでそういう方をピックアップして教育委員会や県の方をお願いするというのが出来るのではないかと思う。

[塩田町長]

事務方の方から。

[坂東教育部長]

今大川副議長から3点のご質問があったかと思う。1点目の現在各小学校がかなり老朽化しており、建築後池田小学校は約35年、その他は40数年から苗羽小学校は55年経過している。ただ合併後平成20年から23年にかけてだと思うが、基本的にすべて耐震改修を実施している。この際にかかなり水まわりであるとか耐震補強工事に合わせて十分ではないかもしれないが最低限を改修、池田小学校について言うと外壁の塗装工事等もすべて実施している。ただその後すでに数年が経過しているので、何ヵ所かの学校からは雨漏り等の修繕の要望も挙がっている。これについても来年度の予算要望、今年度も含めて企画財政課の方でも以前に比べればかなり対応でき、教育環境を最低限守るべく修繕は実施しているものと思う。

2点目の学校図書室については昨年度の27年度から教育長の方もかなり力を入れて町立図書館の司書の方に各学校月2回ということで回ってもらうようにしている。この経験を踏まえて、この4月からの嘱託職員であるが1名採用して、4小学校1中学校の5つの学校を週に1日ずつではあるが学校司書の方に順番に回ってもらっている。ご指摘の図書の購入についてもこの学校司書がいるのでそれぞれの学校で購入すべき予算内であるが、購入すべき図書についてはその方を中心にある程度各学校の調整が出来るものと考えている。

次に3点目の体育活動等ということで、授業の体育と特に部活動について先生の負担軽減も含めて校外指導者というお話だと思う。これについては保護者の方や学校の方からも校外指導の活用をしたいという風なお話は従来からお聞きしているし、教育委員会として

も有効な手段であるとは考えている。ただ適正な方がいるだろうというお話であるが、学校の方でもそういう校外指導に適する方がいるのであればそういう方の提案を受けて、その方に指導をお願いするについて教育委員会としてはどういう予算が必要であるかなどそういう方向で随時学校と相談しながら導入出来るものであるなら前を向いて検討していきたいと思っている。

[塩田町長]

事務方が触れなかったことで私が補足していくと、大川町議が仰った中で小学校、中学校については従来通りであれば小豆島町、小豆島町教育委員会の議論で解決できる場所がかなりあるが、来年の4月から高等学校が1つになって小豆島中央高校に集約されるということは教育に限らずとてもとても小豆島にとって大きなことだと思う。従来であれば小豆島高校のことももっぱら小豆島町サイドで議論して支援策や応援策を立てることが出来たが、小豆島中央高校は島1つの高校であるので小豆島町のみならず土庄町と足並みを揃えて議論をしてバックアップ支援を考えなければいけない。この総合教育会議も例えば、両町合同で開いて新しい高校をどうするのかということを議論しなければいけない。町議会の皆様にも高校の予算で特別に応援するスタッフの人件費が県教委からはそれほど額は出ないはずなので、小豆島で新しい高校の勉強や音楽、スポーツ活動の強化のためにスタッフの強化が必要であると考えてるのであれば両町民が財政支援なりをしなければ実現できないことになるので、そのためにどうしたら良いのかということを常に両町が小豆島1つになって考えていくことがこれから求められるのではないかなと思う。それから一貫教育も新しい高校が頂点であるが、それに応じて土庄町と小豆島町の両方を含めて中学校教育、小学校教育をこうするという議論をきちんとしておかないといけないということだと思う。来年の4月から、あと3か月後には新しい高校がスタートするけれども、県教委は一生懸命しているが私も含めて島民の皆さんが新しい高校を応援するための議論をしているかということ、とても不十分であると思う。年が明けたら期間は短いが一気呵成にどういう体制で応援するかということを私も含めて議論しなければいけないと思っている。谷さんいかがか。

[谷総務建設常任委員長]

教育目標等で1から3までありこれはこれで非常に良くできたものではあると思うが、ただ私が勝手に感じることは小豆島の中での教育目標という風に読める。否が応でも我々の子ども、お子さんが卒業したら小豆島を離れるという前提がある。その中でどうも出てから先が見えないような教育目標のように見える。こういった学校教育のあり方というのもそうではあるが、幼稚園、小学校、中学校、高校のあとがぼやけている。将来や未来というのは確かに将来、未来であるがそこらをどういう表現をしたら良いか分からないがちょっと出てお終いという雰囲気に見える。私が勝手に思っているのかもしれないが。

[塩田町長]

どなたか答弁してみたいという方は。

[坂東教育部長]

谷議員からのご指摘であるが、実際この内容では高校を出たあとの記載はない。発達段階を考慮した学校教育のあり方ということで、高校の方では希望大学等への進学や将来の夢に向かってのチャレンジという記載までである。また大学等で進学することについては奨学金制度の拡充までしか記載が出来ていない。例えば、今グローバル化など色々とあるので島外に社会人として出ていく、大学等に進学してその後社会人となり、日本や世界に通用する人材の育成等の項目をきちんとこの骨子にも記載するというのであれば、その方向で皆さんの意見がまとまるのであればそういう項目を追加したいと考えている。

[谷総務建設常任委員長]

イメージは分かるが言葉で説明することは難しいことは分かる。教育というものが持ち場、持ち場でという感じが非常に見受けられる。実際どの時点で将来に向けてチャレンジするということがあると思うが、将来の目標を完全に高校の時に立てさせるのか。その目標を持って島を出ていくということも。希望大学に進学し、あとは大学に行って考えろ、なんせ良いところに行けという風にとれる。

[坂東教育部長]

将来の夢に向かってということで希望大学等はある程度高校3年生までに自分が将来やりたい医療、福祉の仕事であるとか教育の仕事であるとか、自分は手先が器用であるから物作りに携わりたいなどそういうことで卒業後の社会人であるとか大学の進学などについても考えて頂きたい。しかし、現実にはそういう形で自分の夢をきちんと決めることのできる高校生は少ないというか、半分ぐらいになってくると思う。そういう方については今谷議員が仰ったようにその後について何らかの記載等が必要であれば検討したいと考えている。

[大川小豆島町議会副議長]

今の坂東部長の回答も良いが、私の考えはそういった点もあるが逆に4年都会、大学に出て行って帰ってこれる人材も作るために幼、小、中、高で一貫して教育しているのではないか。一番初めに「ふるさとを愛し」とあり、Uターンで帰ってこれるような人材も作る必要もあると思う。ただ世界に出ていけ、東京に出ていけ、それで向こうで出世しろということではなく、そういった有能な人材は4年後に島に帰ってこい、都会で5、6年経っていても行く行くは帰ってくるような教育も必要なのではないか。でないと今以上に高齢化になってやる気のある人はいないという状況になってきたら将来困るので、やはり逆の面も考えて教育にあたってもらいたいと思う。

[後藤教育長]

先程谷議員が仰った進路指導をということで、今キャリア教育と言って小学校の段階から各小学校やっている。一応教育委員会としても小豆島出身のかなり成功した人の一覧表を各学校にお渡しして、有効に使って講演会など少しでも自分の進路に夢を小さい頃から持ってもらい、その結果中学、高校と自分の考えがある程度固まった段階で自分の目標を持ってもらいたいというのが私たちの考えである。個々によってはその差が出てくると思う。けれどもそういう方向で今進んでいるということで、完全ではないがスタートしたと

ころということでご理解願いたいと思う。また大川議員が言われたように、私が教育目標を作成した際に「ふるさとを愛し」としたのは子ども達に帰ってきてもらいたいという、子ども達の人数がどんどん減って、人口が減ってきているということで「ふるさとを愛し」と付けた。そして「たくましく未来に生きる」というのは色々な所に出て行って頑張ってもらおうという使い方を付けたつもりであったが不十分であったということで申し訳なく思う。

[慈氏草壁保育園園長]

今日のお話を聞かせて頂いて思うのは、この目標に向けてコーディネートするのは大変なことではないかと思ったりする。小豆島町の幼、小、中、高の連絡会等あって色々な交流をしながらそれぞれの立場でどういうことが出来るかずっと考えているとは思いますが、やっぱりそれぞれどれだけ情報を共有できるかという部分についてはなかなか上手く機能していないのではないかという部分も見受けられるので今回骨子が出来てこれに向けて小豆島町が動いていかれるということで非常に期待も大きい。それと同時にコーディネートされる方の手腕によっては全然趣きが違うのかという風にも感じたりする。どうしたらいいのか、もし町長のご意見があれば。もちろん運動能力であったり、教育のことであったり、将来に向けてということもあると思う。小豆島町の産業をどうやって支えていくかもこの基本的な教育のところから産業を支えていける人材育成という部分も考えられるのではないかと思ったりする。全然意見にもなっていないような話であるがどうぞよろしく。

[塩田町長]

ありがとうございます。次回は1月末頃に議論をしたいと思う。できればそれまでの間で気が付いたことがあればメモで早めに出して頂ければ、その宿題に対する答えも含めて次回にお話をさせて頂ければと思う。あくまで大綱を決める主語は町長ということになっているので、総合教育会議と町議会と町民の皆様の皆様のご意見はきちんとお聞きするが最終的には町長が決めると法律に書いてくれているので大胆なことや夢物語のようなことを書いても許容されているのではないかと。教育委員会の大綱だとそのフレキシビリティは多分ないだろうと思うが、選挙で選ばれている町長が作れというものであるから思い切ったことを場合によったら書いても良いのかという気がしている。他に何か。次回は是非メモを出して欲しいのと、お一人お一人からも意見を頂いて3月にはまとめたいたいと思っている。では今日はこれにて。